

(3) ICT を活用した教育実証事業研究大会

～「21世紀型スキルを養うための効果的なICTの活用」～

- ① 日時 平成27年11月25日(水) 10:15～16:45
- ② 場所 西条市立神戸小学校
- ③ 内容

ア 目的・研究の概要

西条市では、H22年度に「西条市小・中学校情報化推進委員会」を設立し、教育の情報化をめざして取組・研究を行っている。H25年度からは、日本経団連と「未来都市モデルプロジェクト(教育分野)」の取組により、神戸小学校をモデル校として教育の情報化及び校務の情報化の取組を行っている。

- モデル校における実証期間
 - 第1期 H25年度～H26年度 電子黒板・校務支援システム・ICT支援員など
 - 第2期 H27年度～H28年度 タブレット端末ほか
- モデル校における取組内容
 - 1 電子黒板
普通教室に電子黒板・書画カメラ・デジタル教科書などを設置
 - 2 校務支援システム
児童名簿をもとに、成績処理・出欠席・指導要録・通知表などを電子化
 - 3 タブレット端末
授業時に児童が使用できるタブレット端末40台を整備
 - 4 ICT支援員
ICTの利活用を支援するICT支援員を配置(1日8時間、月2～4回)



電子黒板による教材提示



実物投影機による教材提示



動画で動き方を確認

イ 公開授業

2時間で計 17 授業が公開されていた。授業で活用する ICT 機器のねらいを明確にし、効果的に活用を図っていた。

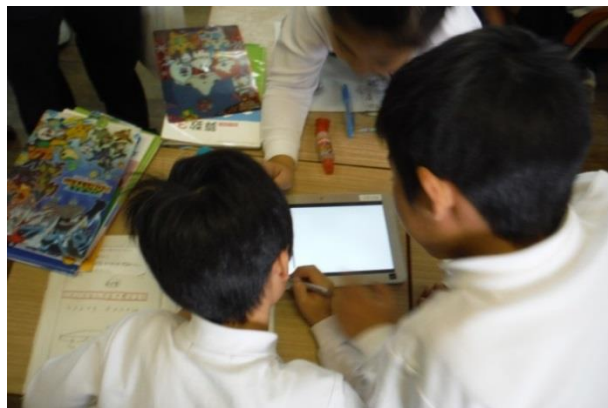
- 興味・関心を高める活用
- 課題を明確につかむ力を高める活用
- 思考力を高める活用
- 表現力を高める活用
- 技能を高める活用
- 知識・理解を高める活用



電子黒板を用いて発表



ノートを提示し発表



タブレット端末を用いて話し合い



タブレット端末で動画撮影

黒板やノートなど従来の授業スタイルに、ICT 機器が効果的に取り込まれていた。より有効な学習効果が得られるように、授業のどの場面で、どのような機器を、どのように活用したらよいか、研究されていた。児童は、タブレット端末などの操作に慣れており、ICT 機器を活用しながら学習を深めていた。また、どの教職員も ICT 機器の操作や授業で活用できるスキルを身に付けており、教職員全体の ICT 活用スキルの底上げがなされていた。このため、15名の教職員で17授業の公開が可能になっていた。

ウ 授業講評

東京学芸大学・川崎誠司教授が授業講評し、ICT 機器が普段の授業から使われていることを評価されていた。今後は、電子黒板とタブレット端末をいっしょに活用し、さらなる授業改善を期待されていた。教材の提示・活用方法の幅を広げたり、児童の理解が深めたりするために、ICT 機器の積極的な活用を考える上で、興味深い内容だった。